

あなたの暮らしを
「つなぐ・ささえる」

あなたの気持ちを
「つなぐ・ささえる」

フリーダイヤル つなぐ ささえる
0120-279-338

一人より、支援者と。

「寄り添いホットライン」スタート!

9月22日「被災者への健康調査結果によると、回答者約1400人のうち睡眠障害が疑われる人の割合は4割を超えた」と厚生労働省研究班が発表しています。また、石巻の仮設住宅で60代の独居男性が自殺で亡くなり、しかもその遺体が一週間以上経って発見されるという事態も起きてしまいました。こうした危機に対応するため、被災した経験を持つ地方自治体の首長や首長経験者等が発起人となり、全国の民間団体に協力を呼び掛けて『一般社団法人 社会的包摂サポートセンター』を立ち上げるようになりました。「せっかく一度は助かった命を失わせてはならない」。これがホットラインスタートの決意です。どんな悩みでも、一度電話で相談してみてください。一緒に解決を考えてみませんか?



10月

							1
2	3	4	5	6	7	8	
9	10	11	12	13	14	15	
16	17	18	19	20	21	22	
23	24	25	26	27	28	29	
30	31						

■ 10月11日～16日…24時間対応
(11日は午後1時から/16日は午後10時まで)

■ 10月17日～2012年2月29日
毎週土・木曜 午前10時～午後10時

※2012年2月29日までのパイロット事業です

死別・離別の悲しみ相談ダイヤル
(岩手、宮城、福島からのみ通話可能)

災害と暴力に悩む女性と
子どものための

フリーダイヤルこころのささえ
0120-556-338

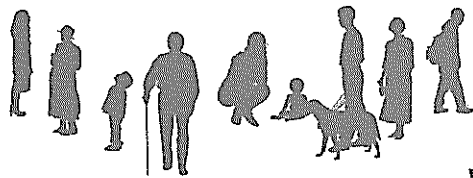
パープルホットライン
0120-941-826

受付時間 毎週日曜 10～20時
毎月11日 10～24時
NPO法人ライフリンク

年中無休 24時間受付
NPO法人全国女性シェルターネットワーク

- 一般社団法人社会的包摂サポートセンター 共催
- 一般社団法人パーソナルサポートセンター 共催
- NPO法人全国女性シェルターネットワーク、NPO法人ライフリンク協力

社会的包摂について



「社会的包摂サポートセンター」は、社会的包摂を進めるための事業に取り組む一般社団法人です。

「社会的包摂」という言葉は、初めて目になさる方も多いかもかもしれません。ぜひ皆さんに「包摂」について知っていただきたいと思い、私たちは法人の名称としました。

さまざまな社会的リスク（お金や仕事がなくなるなど）によって、人々が社会から切り離されてしまうことを「社会的排除」といいますが、これはヨーロッパから始まった概念です。

社会的なリスクが個人の上で連鎖していくと、その人は社会から切り離されてしまうことがあるのです。例えば、「学習機会が不足していた」→「不安定な仕事にしか就けなかった」→「病気になってしまった」→「退職／失業」→「住居の不安定／喪失」という想定をを考えてみると、その時、人は家族からも会社からも地域社会からも切り離されてしまっているかもしれないということが想像できます。

「働いても生活できる給料が得られない」「仕事が見つからない」「病気で解雇された」「家賃が払えないのでアパートが借りられない」「学校に行けない」などの生活困難を連鎖させない、いつでもどこかで支援を得ることができる、新たな社会の仕組みが必要と考えます。

● そこで、こうした「排除」を食い止めるために生まれた考え方が「社会的包摂」です。

社会的包摂は、1980年代から90年代にかけてヨーロッパから広まった概念です。第二次大戦後、ヨーロッパの人々の生活保障は「福祉国家の拡大」によって保障されていました。けれど、1970年代以降の低成長期において、失業と不安定雇用の拡大に伴って、若年者や移民などが福祉国家の基本的な諸制度（失業保険、健康保険等）からもれ、「新たな貧困」が拡大しました。

今の日本の状況にとっても近いとは言えないでしょうか。

日本政府も「社会的包摂」を推進しようと、内閣府に「社会的包摂推進室」を設置しています。

そして、現在の被災地では「社会的排除」につながりかねない、被災者の孤立が危惧されています。

「寄り添いホットライン」は、「一人にしない」「社会から切り離さない」ことを目指して電話相談に取り組みます。

社会的包摂 Social Inclusion

